

2015年11月30日

HOBIA NEWS No.322

目次

- Bio Japan2015 報告
- HOBIA 見学会報告
- 地域バイオ育成講座 in 函館 開催報告
- お知らせ (北海道経済産業局)

● Bio Japan2015 報告

今年もパシフィコ横浜で10月14日から3日間開催された。今年は、過去最大規模となった。出展・パートナー参加企業数714社、来場者数14,153名と報告されている。毎年同じようでないのがBio Japanで、今年の会場で受けた感じを申し上げますと、海外ブースが減って、国内の種々の企業および大学関連が増えていたように感じた。来場者との熱心な情報交換をしている姿があちこちで見受けられてマッチングの狙いが盛り上がっているように感じた。

「ノーベル賞受賞者講演」

山中伸弥教授は、今年も講演され再生医療のシンポの状況を、そして、開催2週間前に発表されたノーベル賞医学生理学賞の受賞が決まった大村智北里大学特別荣誉教授の講演も急遽追加された。エバルメクチン抗寄生虫薬放線菌からの探索に成功し、19カ国1億人以上に無償供与されている。受賞対象からこの分野での急速な発展の状況を講演された。

「充実した講演」

講演の部が充実しているのもBio Japanの特徴で、会場との双方向の多数の議論が繰り広げられていた。医薬関係は多いのだが、医療や医療を支える機材などについての講演・討論と裾野が広がって開催されていた。

「日経新聞のネットワーク、経産省の積極姿勢」

講演の部が充実しているのも特徴で、会場との双方向の多数の議論が繰り広げられていた。経産省の積極的な動きによって、再生医療および医薬産業への官庁の姿勢が変わってきている。再生医療を巡る産業化に関する法律の制定から1年で、厚労省からも積極的に具体的な発言で、現状そして将来方針などストレートに話してくれていた。

再生医療や抗体医薬などの新規分野は、医薬で行われていた従来の判定方法、すなわち試験区とプラセボ区を統計学的に比較する方法の非人道性の主張が大きくなっており、新薬、新医療としての認定のあり方を変えてゆくことも述べていた。厚労省としても国際比較も常に意識の中にあるようで、ガラパゴスから医療行政は前向きに変化しつつあることを感じさせた。

日経新聞社のBio Japanへの後援も大きい。同社のネットワークを使っただけの講師の選定や、宮田満BP特命編集員のコーディネーターや講師役としての情報発信も討論を深いものにし

ていた。

「世界のバイオクラスター」

今年もクラスターフォーラムが開かれ、各国の現状が披露された。今年も持ち時間ぴったりに発表する講演者ばかりで、意識が高まっていることがこの姿勢からも判った。

フィンランド、リトアニア、ドイツはベルリン・ミュンヘン、チェコ、フランスはパリ、ベルギーはブリュッセル等 3 地域からの発表があり、いずれもの特徴は、研究機関と病院との関係をより密接にしておき、新薬、新医療開発の加速化を図っている。

アメリカ BIO は、米国最大のバイオ団体でスタッフ 160 人を抱え、医療医薬だけでなく、農業、工業、環境と各方面へのバイオ技術の進展とマッチングを進めている。

国内からは、神戸、日本最大のクラスターとなり 271 社 7100 人となっている。神奈川は、地元でもあり知事が直接の発表もあり、木原財団を核にバイオクラスター作りを進めている。

HOBIA は、Bio Japan の後援にも入れて頂き、ノーステックのブースに HOBIA の案内ポスターを展示した。今年も、マサチューセッツ州の知事が替わりボストンの BIO からの参加の予算措置がなく、姿を見ることが出来なかった。北海道とマサチューセッツ州は、姉妹州関係でもあり、機会を拾ってバイオの交流も盛んにしたいと考えていたが、またの機会となった。

HOBIA 企画運営委員長 浅野行蔵

● HOBIA 見学会報告

- ・ 催行日：10月27日（火）
- ・ 目的地：札幌市及び夕張市
- ・ 訪問先：産業技術総合研究所北海道センター及びノーステック GCC 植物工場
株式会社夕張ツムラ施設
- ・ 参加者：21名、18名参加

上記の通り行われました見学会の概要を報告致します。朝 9 時に札幌駅北口を貸切バスで出発し、札幌市豊平区にある産総研北海道センターとノーステック GCC 植物工場へ向かいました。HOBIA 見学会を産総研の公式行事として受け入れていただきました。八木所長のご挨拶、研究所の概要説明（扇谷副所長）及びバイオ関連研究を行っている研究室の成果説明と見学をさせていただきました。「核内受容体アッセイ」を用いた食品の機能性評価法（森田 GL）及び活性汚泥を用いた酪農家排水処理を行うシステム「パーラー排水処理」（湯本副部門長）について興味深く説明を伺いました。ノーステック GCC 植物工場では、清浄な栽培環境維持管理のため植物工場の中に見学者が入ることは出来ないということで、ビデオによる説明を受けました（安藤所長、田林さん(ホクサン株)）。こちら参加者の皆さんは興味深くご覧になっていたと思います。受け入れていただいた産総研としては、このような機会を契機に HOBIA 参加機関、企業と共同研究を行うことを期待して公式行事とされたと思います。「近いところにある施設でこんな研究をやっていること知らなかった。もっと早く来れば良かった。」と仰る参加者の意見もありました。

羊ヶ丘にある「かねひろ成吉思汗」で昼食を摂り、午後は夕張市沼ノ沢へ移動し株式会社夕張ツムラの施設を見学させていただきました。戸澤部長のご挨拶に続き施設の説明（清野さん）及び生薬調製棟の見学と説明（渡辺工場長）を受けました。株式会社ツムラはご存じの通り漢方薬のメーカーです。今まで中国から生薬原料の薬草を得ていたのを少しずつ国産に切り替えるため、夕張で栽培・乾燥加工を行う施設として 2009 年に設立されました。成分抽出、製剤は、別の施設で行い株式会社ツムラが販売する。中国からの輸入コストが高くなったこと、及び財政破綻した夕張市への社会貢献、更には道東道の整備により農家委託裁

培を担っている十勝と夕張が地理的に近く、苫小牧港から本州への物流利便性も有利であると説明された。夕張の圃場で栽培しているのは、川芎(セキユウ)、蘇葉(ソウ)、当归(トウキ)、附子(ブシ:トリカブト)の4種。北海道では全部で8種栽培しているとの説明がありました。その後生薬調製棟を見学した。薬草の必要部分を細断乾燥工程及び保管を担う設備は、大きな施設で年間700t生産しています。将来、北海道産だけの原料で製剤出来る位に、農業の6次産業化と相まって栽培、生産量が増えると良いとの感想を持ちました。

秋深まる夕張を後に札幌駅北口へ戻り解散しました。1日っぱいの行程でしたが参加者のご協力により無事見学会を終了することが出来ました。今後の皆様の活動のお役に立てていただければ幸いです。

HOBIA 理事・企画運営委員 半澤 卓 (ホクサン(株)常務取締役農業科学研究所長)

● 地域バイオ育成講座 in 函館 開催報告

「食品機能性表示とヘルスケアビジネスセミナー」

去る11月16日(月) 地域バイオ育成講座 in 函館「食品機能性表示とヘルスケアビジネスセミナー」がホテルリソル函館にて開催された。HOBIA が参画する「地域バイオ推進実行委員会」と北海道バイオ工業会の共催で開催され、約30名が参加した本セミナーでは、株式会社マクキャンヘルスケアワールドワイドジャパン CKO の西根英一氏【写真右】をお迎えして「食品機能性表示とヘルスケアマーケティング」と題して講演。ヘルスケアビジネスにおけるマーケティングやブランディングについて学問的な用語での解説から、動画や図などを使って分かりやすく噛み砕いて説明された。ヘルスケアビジネスの軸が「科学的根拠に基づく栄養摂取・食事管理: EBN (Evidence-Based Nutrition)」にシフトし、商材の価値としての「正しいもの」である食品機能性表示を、ヘルスケアビジネスの中でどのように「いいもの」として消費者に伝えて行くべきか、その手法のひとつが「世の中ゴト」



としての「EBN」であり、そのマーケティング理論を体系的に捉えられた。特に地方自治体レベルで一次産業から食のバリューチェーンを形成することで、大企業並みの事業体を成すことができ、北海道とヘルシーDo に関する一連の活動・事業は、全国的に見ても、その先頭を行こうとしているという指摘は勇気づけられるものであった。

その後、一般社団法人北海道バイオ工業会事業企画・運営委員会主幹事で一般社団法人北海道食産業総合振興機構(フード特区機構)研究開発部部长である三浦健人氏から北海道食品機能性表示制度(ヘルシーDo)の概要とクホ、機能性表示食品との制度としての違い、フード特区機構などが提供する取得支援策などについて紹介。函館地域で食品の機能性を活かしたビジネスを検討している企業の参加もあり、ヘルシーDoをはじめ機能性表示による商品の差別化のヒントが得られたのではないかと。

● お知らせ(北海道経済産業局)

■ 戦略産業コーディネータミーティング

<http://www.hkd.meti.go.jp/hokio/20151124/index.htm>

【日時】平成27年12月17日(木) 14時00分~17時35分 [ミーティング]

18時00分~19時30分 [会費制交流会(参加自由)]

【会場】TKP 札幌駅カンファレンスセンター(旧代々木ゼミナール)カンファレンスルーム2D
(札幌市北区北7条西2丁目9 ベルヴュオフィス札幌 011-252-3165)

【対象】公設試・産業支援機関・大学・金融機関のコーディネータ及びサポート業務に携わる方

【定員】30名〔(参加費)ミーティング：無料、(交流会)会費制：2,000円〕

【プログラム】

- ・ 14:00～14:10 開会挨拶及び戦略分野コーディネータ事業について(経済産業省)
- ・ 14:10～14:30 バイオインダストリー協会の活動について
(一財)バイオインダストリー協会 戦略分野コーディネータ 田中 裕教 氏
- ・ 14:30～14:55 機能性食品分野の最新事情と戦略分野コーディネータ事業の進め方
(一財)バイオインダストリー協会 戦略分野コーディネータ 森下 節夫 氏
- ・ 14:55～15:55 「機能性食品の法制度と海外展開」
講師：名古屋文理大学 教授/フレスコ・ジャパン有限会社 代表 清水 俊雄 氏
- ・ 16:05～17:10 戦略分野コーディネータ及び講師との意見交換
- ・ 17:10～17:35 地域におけるオープンイノベーションの進め方/地域ものづくりに貢献する
産業革新機構の取組について
- ・ 18:00～19:30 交流会(会費制：参加費：2,000円)

【参加申込方法】

以下のお申し込みフォーム(日本立地センターホームページ)から、ご登録をお願い致します。

<http://www.jilc.or.jp/training/2015/coordinator.html>

■ **ブラッシュアップセミナー(バイオ分野)**

<http://www.hkd.meti.go.jp/hokio/20151112/index.htm>

【日時】平成27年12月18日(金)13時30分～18時00分

【会場】ACU/アキュ 会議・研修施設 1605室

(札幌市中央区北4条西5丁目 アスティ45 16階)

【対象】創薬医療系バイオベンチャー、バイオ分野へ新たに参入した中小企業、大学・研究機関
・公設試等の産学連携担当者

【定員】20名(先着順・参加無料)

【プログラム】

- ・ 13:30～13:35 挨拶&趣旨説明(JBA)
- ・ 13:35～14:50 テーマ：事業計画 松本 正 氏 ((株)レクメド 代表取締役社長)
- ・ 14:55～16:10 テーマ：知財戦略 中谷 智子 氏 (長谷川国際特許事務所 弁理士)
- ・ 16:15～17:30 テーマ：プレゼンテーション
稲葉 太郎 氏(レミジェス・ベンチャーズ(株) 代表取締役)
- ・ 17:30～18:00 各講師との面談会(希望者)

【参加申込方法】

以下のお申し込みフォーム(JBAホームページ)から、ご登録をお願いいたします。

https://ssl.alpha-prm.jp/jba.or.jp/pc/activities/open_innovation/guidance/001985.html

HOBIAのホームページ <http://www.hobia.jp>

NPO法人 北海道バイオ産業振興協会
札幌市北区北21条西12丁目コラボ北海道内
Tel&Fax(011)706-1331
e-mail: jimu@hobia.jp